

ナシ黒星病の発生が多くなっています

発病した果実及び葉の除去を徹底し、二次伝染を防ぎましょう

[発令の内容]

作物名 : ナシ
 病虫害名 : 黒星病
 発生量 : 多い
 発生地域 : 県下全域

[発令の根拠]

- ① 5 月下旬現在、発病果率(本年値 0.63%, 平年値 0.25%), 発生地点率(本年値 58%, 平年値 25%)ともに平年より高い(表 1, 図 1)。
- ② 5 月下旬現在、発病葉率は平年並(本年値 0.23%, 平年値 0.23%), 発生地点率は平年より高い(本年値 42%, 平年値 19%)。

表 1 5 月中下旬におけるナシ黒星病発病果率及び発生地点率

地域(地点数)	発病果率(%)			発生地点率(%)		
	H27年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	H27年	平年	順位
全県(19)	0.63	0.25	1位	58	25	1位
県北(1)	1.00	0.13	1位	100	30	1-4位
県央(2)	0.30	0.03	1-2位	50	5	1-2位
県南(6)	0.67	0.41	3位	83	38	1-2位
県西(10)	0.63	0.14	1位	40	16	3位

1) 平成 17~26 年までの 10 年間の平均値を示す。

2) 本年を含む過去 11 年間における順位を示す。

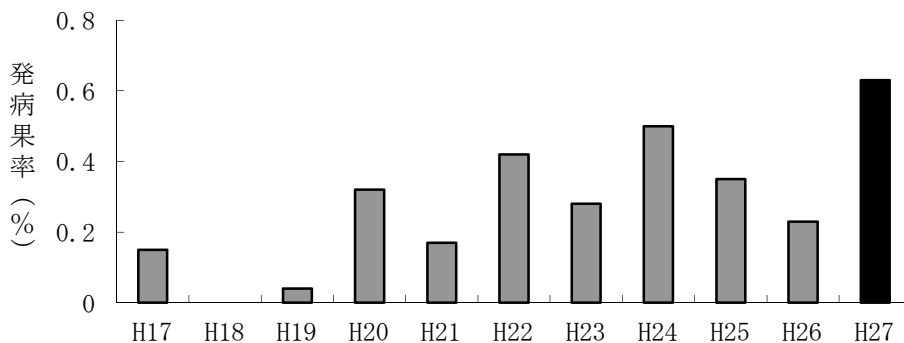


図 1 5 月中下旬における防除所調査地点のナシ黒星病発病果率の年次変動

[防除対策]

- ① 発病した果実及び葉は第二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等、適切に処分する。
- ② 平成 27 年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に、散布間隔が 10 日以上空かないように防除を実施する（表 2）。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

表2 平成27年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例の一部抜粋
(5月下旬～7月中旬の殺菌剤, 茨城県監修)

時期	薬剤名	希釈倍数	成分名	系統名
養分転換期 (5月下旬)	キャプレート水和剤	800倍	キャブタン ベノミル	— ベンゾイミダゾール
6月上旬	オキシラン水和剤	600倍	キャブタン 有機銅	— 銅
6月中旬	フルーツセイバー	1,500倍	ペンチピラト	酸アミド (SDHI)
6月下旬	ベルコートフロアブル	1,500倍	イノクタジン	—
新梢発育停止期 (7月上旬)	ストロビードライフロアブル	3,000倍	クレスキシムメチル	ストロビルリン (QoI)
7月中旬	アンビルフロアブル	1,000倍	ヘキサコナゾール	ステロール生合成阻害剤 (DMI)



図2 幼果の病斑（初期）

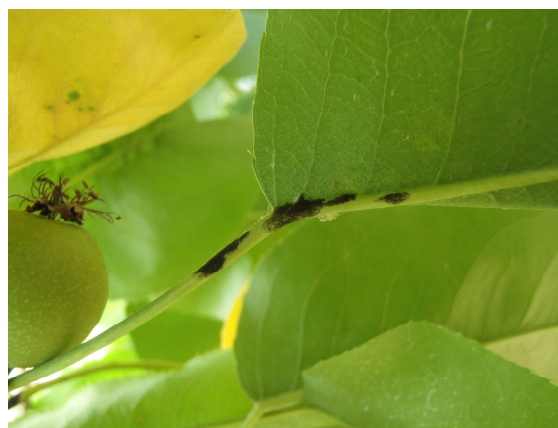


図3 葉（葉柄）の病斑